

住民こそ主人公・住民のための市政を

明日の相模湖

No. 890

2023年5月号

発行：日本共産党相模湖支部

住所：相模原市緑区寸沢嵐794-3

宮崎あき子気付

電話：042(685)1046

mail: jcpsagamiko@gmail.com

少子化の大きな要因 教育費公立で800万円超

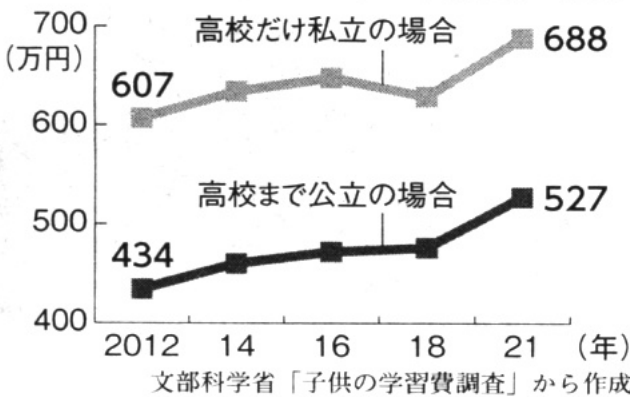
文部科学省の2021年度の「子どもの学習費調査」によれば、子どもが小学校から高校を卒業するまでにかかる教育費は、高校まですべて公立に通っても527万円、高校だけ私立だと688万円です。

授業料が比較的安い国立大学でも入学金と4年間の授業料だけで242万円、291万円します。小学校から大学までの教育費の合計額は800万円超、私立大学なら1千万円を優に超えます。これでは子どもは簡単に生めません。

小中学生の教育費は学習塾などの「学校外活動費」が7割を占めます。ただし学校で使う学用品や制服、通学費といった「学校教育費」や給食費の負担も大きく、小学生で平均年10万5千円、中学生で同17万円です。

高校生は学校教育費が6割を占めます。公立高校の学校教育費は民主党政権が10年度から始めた授業料無償化（高等学校等就学支援金制度創設）で年36万円から24万円へ下がったものの、自公政権の復活で増加に転じ、21年に再び30万円の大台を突

◆小学校から高校の学習費総額の推移



破しました。私立高校では75万円にもなります。自公政権が14年に授業料無償化に所得制限を導入したことで、公立高校生の2割、私立高校生の3割が制度の対象から外れたことや、2度の消費税増税による通学費や学用品費の値上げが影響しています。そもそも憲法には「義務教育はこれを無償とする」と明記されています。岸田政権は「国を守るため」と称し、5年間で43兆円もの軍事費をつぎ込もうとしています。そのようなことはやめ、教育費や医療費の負担を減らすために使うべきです。





了メリカから里帰りにした
号堂桜

津久井の低山③
尾崎城山
539M

青野原から見た
尾崎城山
2023.03.05



自然観察シリーズ

NO. 558

植物

津久井の低山③

尾崎城山 (伏馬田城)

米国から里帰りした萼堂桜

尾崎城山は、牧野地山です。

区の菅井と伏馬田にわたる、標高五三九Mの

戦国時代甲斐武田氏と後北条氏の勢力が接する地という事で、山城か砦のような烽火台のあった山です。

城の詳細は不明ですが、往時の城主は北条氏の家臣で日連村に居を構える、尾崎掃部介でした。そして後裔にあたるのが「憲政の神様」と云われる尾崎行雄(萼堂)です。

尾崎行雄は東京市長を務めていた明治45年、日米友好の証として、荒川川岸の桜の苗三千本を米国に送りました。

昭和56年に区制五十周年の記念に足立区では、米国から三千本の苗を里帰りさせ、そのうち三十二本の苗が津久井町に寄贈されました。そのうちの一部が「尾崎行雄を全国に発信する会」によって、尾崎城に植えられ、「里帰りした萼堂桜」と云われています。

新緑の山なみに囲まれて気分爽快



4月29日、4年ぶりに25回目になる「相模湖やまなみ祭」が行われました。

湖畔に設けられたステージでは民舞、フラダンス、健康体操、歌などが披露されました。広場にはフリーマーケットや飲食の場が設けられ、行列ができているお店もありました。また地震や煙の体験コーナー、流木チップの無料配布なども行われていましたが、こちらは会場の端だったこともあり、訪れる人は少なかったようでした。